

スコール・マスターズ通信

第36号
平成22年1月27日

マスターズ研修&首都圏地区懇親会を開催 永池会長「父親の役割」を熱く語る

年末に充実のひとつ
人生学講座&心身開発トレーニング！



12月12日(土)14時から本部研修室において、人生学・心身開発トレーニングの合同研修を開催し、40名が参加。永池榮吉会長からマスターズ研修にふさわしい「父親の役割」

について熱い講話をいただきました。

■ 会長講話(要旨) ■

家庭教育というがその根本は夫婦のあり方に関係がある。友好的かとげとげしいか、近隣とはどのような関係か、夫婦は健康かどうか、夫の仕事はどうか等様々なバックがある。その中で社会における男女の平等と父親、母親の役割が同じレベルで語られるところに問題がある。

なぜ父親は生まれたか

道徳の源は家庭にある。人間関係は夫婦の関係から、上下関係は親子の関係から身につけていく。日本にはキリスト教やイスラム教、あるいは論語のように社会基盤を作るイデオロギー(宗教や思想)が希薄であり、そのような基盤からの説明を忌避するところがあるので、家庭の中の父親のあるべき姿をイデオロギーに捉われないで説くことが必要になる。そこから人間という動物がどうして「父親」という存在を生み出したかを説明しなければならない。

今日の父親の役割

動物の世界はメスが子供を育て終わったらその子供を排除して終わり。しかし人間は、母親が子育てをしている間、父親の「筋力」によって、生きていくための糧を得ていく必要があったと考えられる。そこに家庭という共同生活が生まれ、そこで一人前に育てられた子供は、やがて年老いた親の

面倒を見るという発達を遂げた。

永い間、日本も生きていくのがやっとの社会であった。現在も世界の多くの地域ではそうである。しかし、昭和30年代以降日本の高度成長のころから日本が豊かになり、生きるのが大変な時代から生きるのが当たり前になった。ところが私たちは漫然と生き、父親の役割が変化していなければならなかったことに気付かなかった。ただ単に生きるということではなく「価値ある生き方とはなにか」を考え、「価値ある生き方とはなにか」を子供に伝えていくことが何より大切であろう。

具体的には、まずは一個の人間として「妻に尊敬される夫」になること。母親が夫に頭を下げれば子供もそれに習うもの。そのためにも、この一点だけは、頭が下がるというものを持つことが必要。是非そのように考えて生活していただきたい。

懇親会で和やかな時間

石田さんからマジックの披露も！

研修終了後の17時より、せんざん本店 相模原店にて毎年恒例の首都圏地区懇親会を開催。43名の参加があり、約2時間の和やかな時間を過ごしました。

司会霜田千代松氏の巧みな案内で永池会長挨拶、小俣代表幹事挨拶、田中協会常務の乾杯と続き、会食に移りました。その間、初参加の相澤一男氏、石川和彦氏、石田昭義氏、近藤裕己氏、坂井隆男氏、佐藤雅是氏、古川憲氏、吉松武志氏の紹介と簡単な挨拶がありました。また、遠くは長野県から渡邊旬氏、宮城県から古川憲氏のご参加がありました。

最後は石田昭義氏のマジックの披露に大いに盛り上がり、新年のそれぞれの活躍を期待しながらお開きとなりました。

(岡本 一誠)



第7回 岐阜生きがい講座：予告

下記日程で開催されます

日時：平成22年2月14日(日)10：00～12：00

場所：じゅうろくプラザ5F

受講料：1,000円 定員200名

問合せ先：小寺房征 058-272-0928

家庭力を高める！

～家庭の機能が低下した今、
父親として何をなすべきか？～

講師 (社)スコール家庭教育振興協会会長 永池 榮吉
教育学博士

会員体験発表 マスターズ代表幹事 小俣 富雄

「子供の将来を考えた家族の関わり方」①

北関東地区リーダー 川田 昌孝



昨年11月15日(日)北関東地区リーダー川田昌孝さんが宇都宮市の伊東文化幼稚園の父親参観日に講演されました。スコールとしても、またマスターズとしても、会員による「父親講座」の初めての例で、

今後の活動の見本になります。川田さんの講演のあらすじをこれから2回に分けて掲載させていただきます。

家庭とは豊かな生命の営みが満ち満ちている場であり、子供の教育の出発点です。生命の生成の場であり、生物として誕生した我が子を人間として育て上げる場であり、生命の大切さを教える場です。生命の癒しの場として、一日の疲れを癒し、明日へのエネルギーを蓄える場です。スポーツクラブ・音楽教室・英語教室etcに通わせ、母親の言葉の一つ一つに癒されるどころかストレスを貯めている園児が多いのではないのでしょうか。ストレスとエネルギー不足(ガス欠状態)が不登園・不登校の子供を生んでいるのです。

生命の教育の場は、地球のリズムに合致した正しい生活習慣を身に付ける場を意味します。基本は早寝早起きの習慣です。文科省は早寝、早起き、朝ごはんを奨励しています。修行は日常生活のすべてにあります。①名前を呼ばれたら「ハイ!」という明るい返事が出来ること。②挨拶がきちんとできるこ

♪♪♪ 投稿コーナー ♪♪♪

2008年4月、新たに名古屋植物防疫所中部空港支所で勤務することになりました。仕事が変わる時考えたのは、ただ生活費を稼げばよいのではなく、社会的に必要とされる仕事をしたい、できれば農業関連の部署で働きたいと思ったので、農林水産省内の植物防疫所を選択しました。

仕事は、輸入または輸出される種苗・切花・野菜果物等の植物の検疫(国境を越えて病害虫が侵入・まん延するのを防ぐ)で、害虫や病菌の識別、植物防疫法等の専門的な知識・技術が必要です。

最初の一年目は書類の審査や検査方法・顕微鏡の操作等を周りの先輩方から実地で指導していただき、二年目の7月には防疫官試験に無事合格でき、正式に防疫官としてリスタートする事ができました。一方、検査で病害虫が発見され不合格となれば、その荷口は消毒してから輸入するか焼却または返送となり、荷主の方はその料金を負担す

行政改革で転属

東海中部地区 宮西 良茂

と。③履きものを揃えられること。履物の乱れは心の乱れです。履物を脱ぐことは動作が終わったことを意味し、きちんと揃えることは、次に履くときの準備ができていることを意味します。これら①～③の習慣を身に付けることが大切です。

子供にとっては、お母さんがお手本であり、お母さんを真似、お母さんから学びます。山下智茂さん(星陵高校野球部総監督)の言葉に「心が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば人格が変わる、人格が変われば運命が変わる」とありますが、人間やろうと決意したら9割が成功するものです。「やろう」と思えば行いが変わり、その積み重ねが習慣になる。習慣の束が人格になるのです。

幼稚園、学校、親、家庭にはそれぞれの役割があり、親でなければ出来ないことが沢山あります。まず親としてどうか、家庭としてはどうかを考えて欲しいのです。正しい生活習慣を子供に教えるのは親であり、家庭です。成績の良い子に育てるより性格の良い子に育てて欲しいのです。性格の良い人との出会いにより、飛躍的に成長するのが子供です。

■ 父親・母親の役割 ■
男女平等、男女同権は社会的決め事です。家庭にあっては平等、同権であってはいけません。家庭では父親が権威を、母親が権力を持ち、父親の権威を母親が保証し、母親の権力を父親が保証する構図が望ましいのです。そして、父親は社会性を子供に教える役割を担い、母親は内発性を子供に与える役割を担っています。

■ 父親・母親の役割 ■

男女平等、男女同権は社会的決め事です。家庭にあっては平等、同権であってはいけません。家庭では父親が権威を、母親が権力を持ち、父親の権威を母親が保証し、母親の権力を父親が保証する構図が望ましいのです。そして、父親は社会性を子供に教える役割を担い、母親は内発性を子供に与える役割を担っています。(次号へ続く)

ることになるので、合否判定は正確に行う必要があります。プレッシャーも感じています。

職場ではミスやトラブルを防ぐため危機管理マニュアルにより、一般業務・組織内コミュニケーション・対外連絡等のパートごとに点検項目がまとめられ、常時確認できるようにしてあり、私もこれを元に何か不備がないか注意しています。それでも時おりミスをして思い通りに行かない部分もありますが、疑問点は時間の許す限り自分で調べ、それでも解らない時は先輩に聞き、一人で抱え込まないことにしました。

二年目で改めて感じたことはチームワークの大切さです。自分だけの思い込みや間違った解釈で仕事を進めたら、相手に大きな負担を負わせることになる場合もあり、訴訟に発展することもあります。常に同僚と連絡・確認をとりながら仕事をしないとイケないのです。

気を抜けない仕事ではありますが、成すべき勤めを得たのだと思い充実した日々を送っていると感じています。

連載 ③

就職して心掛けた“学び”

北海道地区 中澤利治

クレーン運転士の免許を取得



友人の父親に紹介していただき、入社したのは〇製紙会社の下請会社でした。仕事の内容は、道内及びその他の地域より貨物車や大型トラックで搬入される原木等を電動ウインチを使って積み降ろす作業でした。その電動ウインチの運転指導を受けて、私が同機を運転し、指示担当者の手の動きにより原木等を高く積み上げていきます。白樺材・一般雑材・太い原木材を別々に、高く積み上げ、場所も移動して作業を行います。その他、大型移動式トラッククレーン車が荷物をつり上げ、トラック部で移動しながら丸太材を積み上げていきます。

そんな作業をしていたある日のことですが、職場長から話しがあり、ウインチの運転及びトラックの運転さらにクレーンの運転士として、その資格を取得するようとの指示を受けました。早々に室蘭市へ出張してF社の構内で、連日クレーン運転士になるための学科及び実技の指導を受けました。

後日に各科目別に本試験があり、初日に学科、次の日は実技（ワイヤ選定・加重荷物測定等）を行ない、全科目無事に合格する事ができました。特に、実技試験時における呼吸法が大きな力となりましたことに感謝であります。当時は起重機運転士免許証を北海道労働基準局長より交付を受けたのですが、その後職場において、クレーン運転士として勤務をさせていただきました。

残業もしながら高校を卒業

作業前に朝の各部点検及び給油等を行ない、さらに安全関係の点検を十分に行ないます。作業時間までにすべてを終わらせることが大事です。特に新人運転士でしたので、原木等の荷物のつり上げ移動に、かなりの神経を使ったために、一時的に体型がスリムになった事を感じていました。

毎日朝7時から始まり、午後は1時から4時までの勤務ですが、現場別の組長より要請される残業が多く、高校には遅刻することが度々ありました。学校の授業は午後5時30分から始まりますが、授業時間に遅れることが多く、

先生や学友の方には何か申し訳ない思いで、身を小さくしていたものでした。

欠席したこともありましたが、時として自分に都合の良い言い訳をしたこともありましたが。“学校へ行きたくても、それができない人もいる”そんなことを思うと、自分は職場で多くを体験して、さらに学校で学ぶこともできる、その点では他の高校生よりも、恵まれていることに幸せを感じていました。

また4年間の高校を無事に卒業できたことは、自分を健康に育ててくれた父母に「有難うございます」と感謝の気持ちでいっぱいです。

市役所の職員募集に応募

高校卒業後の自分の目標として、新規の職場へ改めて就職をしたいと考えていました。幸いにして、T市役所職員募集の公告がT新聞に掲載されましたので、同市役所総務課の説明を良く聞いて早目に「職員採用試験申込み書」を提出しました。昭和33年2月に第1次試験に合格、第2次試験は面接、第3次は市立病院で健康診断検査も終了して、3月20日に合格通知が届くと同時に新聞にも発表となりました。

私は勤めていました会社の職場長や総責任者であります事業所長さんへ報告をして、3月末での退社をお願いについて話しをさせていただきました。ところが急なことであり、私の後任の関係もあって、4月20日まで勤務することになり、市役所で辞令（技術職）が交付されたのは4月21日付でした。市職員の心得としての研修を受け、さらに衛生業務・清掃業務・食肉処理業務・墓地管理業務等の研修を受けて、清掃業務に配置されました。

早起きして仕事の準備

当時の私は、市民の公僕として何を心掛けていくかと考えたものです。一つには、早起きをすること、40分前に職場へ出勤すること、一日の仕事の準備を心掛けること、考え方に迷うときは、原点に立ち返ることを心掛ける様にしました。

一つ一つ、学習させていただいていることに感謝です。毎日朝一番の点呼時に、元気な挨拶の声をきいて、一日の作業全体における安全を願っていました。各車運行前の点検が大事であり、故障等を事前に報告を受けるのも重要であります。私は特に明るい心で、一人一人に声かけをして、各車を送り出す事が一日のスタートであります。

無事故で安全な作業を続けることが、“よりよい市民サービス”につながって行くようにと願っています。（つづく）

人生学講座

マスターズ 鈴木修三郎氏 早朝研修皆勤賞

毎朝各地の教室で開催されている早朝研修に参加されるマスターズ会員も増加しています。スコレ活動の基本は早朝研修にあります。

昨年1年間(1月1日～12月31日)の早朝研修への参加で、次の各氏が表彰されることとなりました。新年全国各地で開催の新春寿交禮にて表彰状が渡されます。(敬称略)

【皆勤賞】 1名 (東海)鈴木修三郎

【精勤賞=欠席10日まで】 5名

(京浜)長久保定夫、(八王子)小林 晃、
(中央)霜田千代松、(北陸)笹井喜郎
(近畿)小野 功

【努力賞=出席300日以上】 8名

(北海道)中澤利治、(栃木)川田昌孝、
(京浜)岡本一誠、(八王子)米村 陽、
(多摩)石田昭義、(中央)藤田和弘、
(北陸)近藤 悠、(近畿)細見周造
(川田昌孝氏は主幹なので人数カウントのみで表彰は無し)

マスターズ会員の表彰者推移は次の通り、年々表彰者が増加しています。

平成16年3名、17年7名、18年10名、19年11名、20年12名、21年(今回は)14名で皆勤賞受賞者も生まれました。

ハンド・イン・ハンド 全国48ヶ所で街頭募金
マスターズも協力136万円の募金を集める



昨年12月13日(日)、ユニセフ(国際児童基金)の第31回「ハンド・イン・ハンド」に協力、スコレでも全国48ヶ所943名が街頭募金を訴えました。各地でマスターズ会員も家族と一緒に街の人々に声をかけました。

集まった1,357,000円の浄財は(財)日本ユニセフ協会に贈られました。家族揃っての募金活動は、子どもたちに貴重な経験となるでしょう、是非、皆様の次回活動への参加を期待します。

編集後記

約3年半前、カウンセリングにて永池会長より「あなたには守るべきもの(家族)がある」と指導をいただきました。以後、私の家族への思いはこの言葉と共にあります。「父親の出現」が「家族の成立」につながっているということは、父親が自らの役割を放棄すれば、家族そのものが危機に陥るということです。年末のマスターズ研修に参加し、私がスコレで学び始めるきっかけとなった永池会長の言葉を改めて味わってみました。(白石 英樹)

青 朱 白 玄
春 夏 秋 冬

今年の正月も鮮やかな初日の出を見ることが出来た。穏やかな正月、一年が過ごせるよう初詣を済ませ、ふと1月に「初」と付く日に何があるのかと暦を覗いた。初詣に始まり初荷、初夢、書き初め、初水天宮、初薬師、初金比羅、初観音、初大師、初地蔵、初天神、初不動などがあつた。何事も初めてということにはそれなりの意義があり、新しくなることへの期待が強まる。その為、諸々の物事に対する矛先が鈍るのは仕方のないことなのか。

他に小正月の文字が暦の中に見えた。小正月は松の内が終わるこの日の朝小豆粥を食べ、豊作を祈願するというこのように、赤い色の食べ物は邪気を祓う意味があり、祝い事の赤飯もこの由来からきていると聞く。さらに、松の内まで忙しかった女性を労う意味もあると聞く。

また暦の中に、日本ではあまり話題にならないが旧正月がある。お隣の中国などでは最も重要な祝日とされ、新暦の正月よりはるかに盛大な祝いが行われている。日本の中華街でも華やかに行われている映像を見たことがあり、今年は横浜の関帝廟に行ってみようかと思っている。ちなみに今年の旧の元日は2月14日、バレンタインデーの日だそう。

今は節分の恵方、恵方巻の方があちこちで話題となっている。その日がくると、乗せられているのかなあと思いつつ、つついっ方角を気にしながら太巻きを買ってしまう。(梶田 健二)

当面の行事予定

- 2月 7日 「心身開発コース」
(スコレ会館3階)
- 2月14日 東海地区「生きがい講座」(岐阜市)
- 2月21日 「人生学コース」
(スコレ会館ホール)
- 3月 7日 「心身開発コース」
(スコレ会館3階)
- 3月14日 「人生学コース」
(スコレ会館ホール)
- 3月下旬 マスターズ通信 第37号発行
- 4月 4日 新年度「心身開発コース」
(スコレ会館3階)
- 4月18日 新年度「人生学コース」
(スコレ会館ホール)

編集：社団法人 スコレ家庭教育振興協会
スコレ・マスターズ 広報委員会

発行人：小俣富雄

〒194-0013 東京都町田市原町田4-7-12

TEL：042-707-4500

http://www.schole-masters.org